



右馬允の父王

暑中御見舞い  
申し上げます

深緑の中に鮮やかな赤色の花フツロセンウ  
オレンジ色のモントブレチア、淡いたんぽん色のヒメギ  
夏の花たちが出揃いました。草むらが好きと思われ  
る山百合は右馬允の庭が大好きなようで年々その数  
を増やしつい先頃まで香りが強く大変でしたが  
ようやく収まりここから咲く花と数える程に別れた。  
お盆に活けたい桔梗や撫子はすでにいい時を過ぎて  
今や吾亦紅、水引き、ユウガキクが一目見之下す  
すすきと穂を夏風になびかせています。そんな  
急がないで、と叫びたく別れすが自然界は  
何にせかしているのだ(よね)。

山のきのこもすでにいくち(網茸)が出ました。たまに  
赤山鳥茸、杏茸、も取って山に川に身体が又欲し  
い長男允です。昨日は弟の充と親しい釣り仲間  
三人で岐阜の祝良川へ。20cm程の魚が  
入りがかりた、たまたま夢中で釣り上げた一日た  
たの事です。充が70匹、允60匹。父親の正介は  
近場の中沢の川へ。母の<sup>テリ</sup>帰る3:00までの  
釣り時間で14匹、上等です。

その間に、悲しい出来事か……

正介さんは大の鶏好き。立派な鶏舎を用意し卵  
が之した成鶏の朝一番の鳴き声を毎朝楽しんでいま  
す。三匹の雄鳥の鳴き声か今一羽の下東天紅の卵を買  
い求め5羽(卵の数だけ)かいて、ヒヨコ。正介の  
ベントの足元(床の間)にダンボールを置いて介護の  
合間にはおき見ながらかわいらしいその姿、鳴き声  
癒されていたのですが運悪く青大将が入って正介の  
見下時には3羽はすでに飲み込んで4羽目を飲み込もうと  
している。うたまたまたい、ツゲ〜 大変に〜 a叫び声に  
草取りをしていた私か駆けつける途中おな飲み込み  
たおに到りて入る大きなお腹、  
と追いかける正介から必死で逃げています。憎しみに  
執念を捕えて——。無事たまたま正介の急する大切好き